



神宮前3丁目プロジェクト〔商業施設ビル〕
 建物設計：株式会社アトリエ秀 施工：株式会社One's Lifeホーム
 技術協力：一般社団法人日本WOOD.ALC協会 一般社団法人日本CLT協会
 施工体制：神宮前3丁目プロジェクトチーム

2010年建築基準法改正に伴い技術革新が進み新たな防耐火建築材料として開発されたCLT（床・天井）、WOOD.ALC（壁）が採用された物件です。

3階事務所



2階美容室〔Terrace AOYAMA〕

低炭素社会を達成させる木材
 Wood Attain Low Carbon society
WOOD.ALC®

竣工：2019年4月 延床面積：104.90㎡
 構造：鉄骨造3階建て
 壁：WOOD.ALC105mm+外断熱ネオマフォーム50mm+大波鋼板
 樹種：スギ45mmソリッド（八溝材）
 床天井：CLT270mm
 樹種：スギ（多摩産材）
 塗装料：ノンロット クリアー2回塗り
 用途：商業施設ビル 1階（店舗）、2階（店舗）、3階（事務所）
 所在地：渋谷区神宮前3丁目
 主な木材使用量 W.ALC21.9294㎡ CLT 24.8847㎡



1階予約制レストラン〔JULIA〕

- ★ 令和元年 木材利用優良施設コンクール 木材利用推進中央協議会 会長賞
- ★ JAPAN WOOD DESIGN AWARD 2019 ウッドデザイン賞 受賞〔ソーシャルデザイン部門〕
- ★ ウッドシティTOKYOモデル建築賞 奨励賞

神宮前3丁目プロジェクト

<allée de JINGUMAE>

0か100ではなく無理せず皆で少しずつ
(木材利用拡大に向け)

両輪で！
・山の環境と都市の環境
・中大規模木造と非木造建築の
木質化

建て主への魅力とメリット
所有者にとって、使用者にとって

7つのキーワード

誰もが採用し易い～
オープン工法、木造業者と不慣れな業者

郊外の中低層大型施設への応用

非木造建築の木質化
非住居系建築の木質化

木材＝サステナビリティ
・時代や社会の変化に対応できる建築
(可塑性・更新性)
・ストック建築への汎用

青山通り・南青山3丁目の交差点からキラー通りを200m、路地を入れて直続この建物は付む。周辺の木造と言えれば谷間に残る古い住宅程度、木造化が進まない中心市街地に於ける収益目的のテナントビルである。

本計画は建物本来の価値と魅力、そして時代の流れが速い商業地でのサステナビリティを追求し「長寿命」を命題に掲げた。その為には時代の変化(時代やテナントの需要、所有者 or 使用者や用途の変更)への対応＝可変性が必要条件、これを価値と踏まえ新たな魅力ある都市建築を目指した。

狭小敷地に対して重畳鉄骨のフレームにより無理なく合理的に立体空間を切り抜き、可変領域を広げるべく、主要構造部の一部である床スラブ(屋根)、外壁の各構面を増改築の容易な木材(厚板集成材/床スラブ:CLT、外壁:WOOD.ALC)で構成した。また、木材の魅力を発揮すべく燃代設計と床スラブを工夫、準耐火構造の性能を満たしながらも、室内の壁・天井の全面露出を実現させた。これは自由な内装工事に対する下地工事の削減にも役立とうばかりか、スケルトン状態で既に十分にスタイリッシュで温かみある空間を提供している。これは室内が耐火被覆で覆われ易い木造準耐火をしのごく木質感である。

一方、木材は都心でも可能な地産地消(多摩産材CLT、福島産材WOOD.ALC)に拘り、工場製作&加工済の集成材パネルを採用、明解な構成と既に確率されている施工体系(ALC工事)での施工を可能とする事で、設計者及び施工者に高い木造のスキルを要せず、広く波及することを期するものである。



▲CLT (t270)
床スラブに使用



▲WOOD.ALC (t105)
外壁に使用



▲耐火被覆内を配線
スペースとして活用

47,229 m²
0.46 m²/m²
(仕舞期間による)

▲当建物の木材使用量

